

第二グループ（2期）は、平成10年4月より活動開始しております。今年4月で18年目に入ります。第二Gの新年会も参加メンバーも激減しましたが、実績と経験と意欲でまだまだ頑張りますので宜しくお願い致します。

最初は、何も全く分からず無我夢中でありました。（現在は先輩各位がアドバイスをしてくれますので安心です。しかし、アドバイスには、ガサネタも多くよく確認してから受け入れる事、念の為。）当時は文化財の維持保存が優先していた時期でした。現在は活用を重視して保護する傾向が強くなっております。

因みに、「文化財保護法第一条」では、「この法律は文化財を保存し、且つその活用を図り、もって、国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する事を目的とする。」とあります。

日本の木造伝統工法で造られた古民家は、適正に維持管理すれば、数百年は維持できると言われております。朽ち果てるのは簡単、維持するのは大変である事を痛感しております。炉端の会で保存活動に携わる事ができ、重い責任を感じると共に生きがいの一つでもあります。（民家は日本の住文化の結晶であり、一度失われると取り戻す事が出来ない。）

また、園外活動も多々行って来ました。三輪先生にガイドをお願いして、奈良を中心に奈良の柳生街道沿いの旧井岡家も含む神社仏閣巡りや、わが国最多の茅葺き民家の残る京都美山町の北山型入母屋造り民家集落と、現在茅葺民家では最も古い民家といわれている重文・石田家住宅（慶安3（1650）年3月11日の墨書）（写真参照）に行きました。その他、伊根町の舟屋の残る漁村等にも行きました。

↓ 石田家住宅見学写真



また、木曜班としても学習会、親睦会、飲み会も兼ねて数知れない程の、園外活動を行ってきました。今後も続けて行ければ良いと思っております。特に、三溪園のガイドスタッフとの意見交換会などは、思い出の一つであります。

祖先が創造し、遺してきた文化財を常に身近に享受できる都市の市民は幸せであります。昭和26年の企画立案から始まって64年、日本民家園も開園から早や50周年が近づいてきました。多くの方々が携わり努力のお陰で市民が誇れる、日本で最大級の民家園に発展しました。さて、今後50年先までどのように維持保存して、後世に継承する事が出来るかを肝に銘じて、50年後に現在我々が行っている炉端の会の活動が高く評価される事を期待して微力ですが楽しみながら頑張りたいと考えて居ります。

今後の課題としては次のような事が考えられます。

- 1) 高度な長期ビジョンを明確に打ち出す事。
- 2) 創造性と自主性を持った強いリーダーシップ。
- 3) 更なるお客様満足度の向上。
- 4) 生田緑地全体の総合プロデュースシステムの推進。
- 5) 今後益々経費の増大が見込まれるので、市民が納得し誇れる運営の継続。

(平成27年1月)